

あかしあ

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

通信販売
いたします

地図の専門店

- 地形図、空中写真、海図、地質図の販売
- 特注地図、地図データベースの製作販売

国土交通省国土地理院特定販売店
株式会社 **アルプス** 出版社

名古屋市中区東横二丁目21-11 (CBC筋向)
電話 (052) 931-1005 (代) FAX (052) 932-1312
<http://www.alpspublishing.co.jp/>

企画・制作：株式会社 新聞ビル

だんだんの父
朝の連続テレビ小説『だんだん』。めぐみとのぞみの双子姉妹は、念願の歌手として成功を収めるのか、二人のこれからが注目されるところだ。

主人公めぐみとのぞみの双子姉妹の父は、松江・宍道湖でシジミ漁師をしている田島忠。プロボクサーになりたくて大阪に出たものの夢破れ、挫折。京都で舞妓をしていた一条真喜子と結婚し、双子が生まれるが離婚。めぐみを連れて松江に帰り、漁師を継ぐ。幼馴染の嘉子（よしこ）と再婚するが、多くを語らず、過去の一切を封印して生きてきた。だが、めぐみとのぞみが再会したことで、忠の心にも変化が起きるといふ筋立てだ。その田島忠を演じているのが、俳優の吉田栄作さんだ。かつてのテレビドラマ時代からは想像出来ない配役だ。

役柄は、無骨で、不器用で、ほとんど笑わない。吉田さんは、「置き去りにした夢がある」と思っている。ボクシングに対する情熱の炎が消せなかった忠が、音楽に対する自分の思いとダブる。

劇中、忠はエネルギー源として「しじみカレー」をよく食べる。吉田さん自身も、



Nobuo Murakami

元気のでてくる“ことばたち”

124

村上信夫

(アナウンサー)

テスト、リハ、本番と、本気で3杯たいらげる。ちなみに吉田さんもカレー歴は30年に及ぶ。「僕の作るカレーは世界一うまいよ!」と公言してはばからない。カレーには、赤味噌も入れれば、酒も、チヨ

を追求した。「燃え尽きたい、出し切りしたい」という性分は、昔から変わらない。

一時休業が変えた

1969年、神奈川県秦野市の生まれ。182センチの長身だ。「栄作」という名は総理大臣の名前から父がつけた。ちなみに父は武夫。兄は信康(信長十家康)。

燃え尽きたい、出し切りしたい

俳優 吉田栄作さん

コマでも：いろんな材料をとつかえひっかえ、長年の試行錯誤は今も続く。

娘たちの歌手になりたいという夢への迷いを断ち切るため、命をかけて戦っていた若き日の姿を見せようと、父の忠がボクシングに挑むシーンは、ドラマ前半の見せ場だった。このシーンのために、去年2月から、吉田さんは、週1回ずつとトレーニングと減量を続けていた。練習中、心拍数が210まで上がり死ぬかと思ったぞうだ。

シジミ漁師である忠の必殺パンチ「ジョレンアッパー」は、吉田さんのアイデアだ。シジミ漁の漁具ジョレン(鉄製のかご)を使うと左手が鍛えられる。引き上げる時、左腕がアッパーを打つような格好になる。そこからヒントを得た。対戦相手のパンチを顔面にうけて、大の字に倒れるシーンでは、意識的にガードを下げ、リアルさ



俳画/イネ・セイミ

村上信夫プロフィール
NHKチーフアナウンサー
1953年、京都生まれ。明治学院大学卒業後、1977年、NHK入局。富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。4月からは、新番組『ラジオビタミン』担当。(ラジオ第一8:30~11:50)これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。趣味は、将棋。著書に『元気のでてくることばたち!』(近代文芸社)『おやじの腕まくり』(JULA出版局)『いのちの対話(共著)』(集英社)『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

NHK紅白歌合戦にも2度出場している。「大きな賭けをしてみたい」という気持ちで役者への道を志す。1988年の「ナイスガイ・コンテスト」でグランプリ獲得いわゆるイケメン俳優のハシリとして、テレビドラマの常連となる。

「10代の頃は、自分がほしいと思うものを全て手に入れば、悩みなかない世界が待っている」と思っていた。「いきがっていい」。

20代前半。体力の限界に挑み、自分の弱さとも戦った。俳優になるのも、有名になるのも自分が望んでいたことだったが、想像とは違った。自分を強く見せることに疲れ、心身ともにボロボロになった。

26歳、人気絶頂期の1995年に芸能界を一時休業。これを彼は「野心的休業」と呼んでいる。「いま思うと、いいタイミングだった」

役者休業のためにロサンゼルスへ向かう本を読み、映画を観て、ボイストレーニング、英語で演技のレッスン、テニス、サーフィン…。

燃え尽きたかと思っていたが、種火が消えていないことがわかった。好きな時に好きな場所で好きな音楽を自然にやる人たちを見て触発された。「人目を気にせずに生きればいいと気づき、楽になった」

1998年帰国。『大地の子』の演出で知られる敏腕の岡崎栄ダイレクターに請われ、NHKドラマ『流通戦争』に出演。翌99年の大河『元禄繚乱』、03年の大河『武蔵』など、復帰後はNHKづいていた。演じるたびに、一皮も二皮も剥けていった。

去年は俳優活動20周年。今年、歌手活動を始めてから20年。シングル17枚、アルバム8枚リリースした実績もある。95年に香港、台湾、東京のアジアツアーで2万人動員したこともある。

このころは、マイペースで音楽制作を続けてきた。2004年には、8年ぶりに都内のライブハウスで、ファン100人ほど集めた公演を開催し、以来、毎年1回夏の恒例にしている。一昨年、12年ぶりのリリースとなるミニアルバムを限定発売したロサンゼルスのアパートで作った曲たちを集めたものだ。今年あたりから、そろそろ歌にも力を入れていきたいと思っている。

今年1月3日で、40歳になった。誕生日前夜には、恒例の儀式がある。寒風の中を、次の1年に思いを馳せながら走るのだ。不惑の年、吉田さんは、「表現者としての成人」を迎えたと考えている。どんな成人としての表現を見せてくれるのか楽しみでたまらない。



好評
発売中

イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。



俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 月二回 第二・第三金曜日
午後一時~三時
会費 一回 二二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三五〇四七〇)

フルート奏者 イネ・セイミ

「一音一音
いとおしむように
奏でる音色
貴方に幸せを
届けます」

コンサート依頼はこちらへ
☎0563(32)0583
(セイミオフィス)

慈愛の人・良寛 (44) 杉本武之

良寛と道元

たくさんある良寛の漢詩の中で、最もドラマチックな構成と内容を持った作品は「永平録を読む」と思われます。

良寛の生涯には何度か劇的な瞬間がありました。18歳の良寛が父親に反抗して家出した瞬間。22歳の時、国仙和尚に会い弟子入りが行脚するが、39歳の時に生まれ故郷の越後に帰ろうと決意した瞬間。最晩年に、40歳も年下の若く美しい貞心尼と出会い、心温まる交際が始まった瞬間。

こうした瞬間の中で、最も重要なものが道元禪師の『正法眼蔵』との邂逅でした。1788年8月15日の夜、円通寺で国仙和尚から『正法眼蔵』の教えを受けました。その時、良寛は31歳。円通寺で修行を始めて10年後

のことでした。良寛はショックを受けました。今までの自分の考え方、生き方は間違っていた。これではいけない。やりなおそう。国仙に頼んで、寺にある『正法眼蔵』の写本を読むのを許してもらいます。そして、良寛は道元の示した生き方を実践するために円通寺を出て、遠く行脚の旅に出ます。

その時のことを中心にして、心の変化『正法眼蔵』のすばらしさ、道元への憧憬、自己反省などを劇的に詠んだ詩が『永平録を読む』です。現代語に訳したものを載せます。

《春の夜が更け、あたりの闇も深まった。雪交じりの春雨が庭の竹に降り注いでいる。寂しい。しかし、この寂しさを慰めるすべはない。暗闇を手探りして『永平録』を取り出す。机上に置き、香を焼き、灯火を点け、静かに読み



道元 (1200~1253)

始める。一言一句、すべて珠玉の文字である。『身心脱落』こそ永遠の真理だと説かれている。ああ、思い出す。昔、玉島の円通寺で修行していた時、今は亡き国仙和尚から『正

その結果、今までは自己中心で自分の救済のことばかり考えていたことが分かり、その間違いに気付いた。これを機に、師のものを離れ、諸方を遍歴することにした。私と道元禪師との間には

今この道元禪師の語録を手にして、心静かに読んでみると、他のいろいろな教えとは大いに趣を異にしていることがよく分かる。『正法眼蔵』がすぐれた玉のなかつまらぬ石なのかということすら誰も考えようとしなかった。この尊い書物が五百年この方、塵やほこりに埋もれて見向きもされなかつたのは、ただただ人々に正しい仏法を選びぬく眼力がなかつたことによるのだ。

世の中というものはこうしたものなのだ。道元禪師の昔を偲び、今の世のありさまを嘆いていると、心のすみずみまでが苦しく、悩み疲れてしまった。この夜、灯の前で涙が流れ止まず、道元禪師の本をすっかり濡らしてしまつた。

翌日、近くの老人が草庵にやってきて、「この本はどうして濡っているのかね」と聞いた。わけを話そうと思つた

がうまく答えることができな。胸がいよいよ切なくなる。心がますます苦しくなる。そして、どうしようもない。頭をたれて、しばらくじっと考えているうちに、よい言葉思いついた。「じつはね、昨夜からの雨で濡らして本箱が濡れたためだよ」

良寛が読んで涙を流した『永平録』は、どの本のことだったのでしょうか。いろいろの説があり、1358年に刊行された『永平元禪師語録』一巻、1672年刊の『永平広録十巻、1816年刊の『正法眼蔵』七十五巻などが考えられています。私は、永平録とは書名ではなく、単に永平(道元禪師)の語録という意味だと思えます。そして、それは道元(1200~1253)の代表作『正法眼蔵』のことです。この夜読んだのは『行持』の巻だったので、私には『正法眼蔵』の巻だとは思っていません。別の詩の中に「正月二日夜重ねて三更、焼香して正法眼蔵行持の巻を拝覽す」という一句があるからです。刊行本ではなく、良寛自身が書写して編んで

おいたものだったのかも知れません。曹洞宗の開祖、道元と著『正法眼蔵』について少し説明します。

よく知られているように、道元は24歳の時、正しい法を求めて宋に渡りました。そして、2年後に天童山で生涯の師・如浄に相見します。28歳の時、如浄から『嗣書』(後継者であることを示す証明書)を相承します。これで道元は正式に如浄の法を継ぐ正真の弟子になったのです。まもなく道元は帰国しますが、別れに臨んで、如浄は日本人の愛弟子に、戒めの言葉を与えました。「城邑や聚楽に住することなかれ。國王や大臣に近づくことなかれ。ただ深山幽谷に居住して、求道の者を教化せよ」

帰国後、道元は2年間、建仁寺にいて、それから京都の中心を離れて山城の深草に居を移します。だんだん弟子も増えてきたので、宇治に興聖寺を開きました。7年後、越後に移り、45歳の時に永平寺を開きます。54歳で亡くなるのですが、山城の深草でも、宇治の興聖寺でも、永平寺でも、道元は正しい

仏教のあり方を追求し、日本語の到達点ともいわれる力強い文章で自分の信念を表現しました。そして、弟子たちに説法しました。そして、後に『正法眼蔵』として集められました。最初の『弁道』を書いたのが32歳の時で、最後の『八大人覺』(修行者の覚るべき八つの道)を書き終えたのは54歳、つまり死の年の正月のことでした。

玉島の円通寺において、初めて『正法眼蔵』を読み、30歳を過ぎた良寛は衝撃を受けました。何にそれほど激しく心を揺さぶられたのでしょうか。どうして自分は間違っていたと反省したのでしようか。道元は、自己の修行は、同時にあらゆる人々を救おうとする心がなくてはならないと厳しく教えたのでした。自分より他人を先に済度すべきだと説いていたのです。「菩提心を起こす」といふは、おのれ未だわたらざるに、「一切衆生をわ

たさん、と発願し、いとむなり(『正法眼蔵』)。竹村牧男は「良寛の詩と道元禪」の中で「仏道の極意は利他教化にあることを教えられた以上、自分の非力をかえりみるいとまもなく、道を踏みかえねばならなかつたのだらう。それは、かつての出家したおりの断固とした決意よりも、さらに固く熱い決意であつたはずである」と書いています。

道元と出会うことによつて、自己中心だった良寛に、他者の幸福という視点ができたのです。宮沢賢治の有名な言葉が思い起されます。「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」

〈杉本武之プロフィール〉
1939年、碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大卒院で学ぶ。〈趣味〉読書と競馬

この指とまれ (155) 氏原朝信

メジロを飼う (1)

寒くなり、山茶花や梅が咲くようになると、どこからともなく「チー、チー」と鳴きながら、花の蜜を吸いにやってくる。一羽だったのが一羽増え二羽に、時には、シジュウカラといっしょに群れてやってくることもあります。庭の木枝に輪切りにしたみかんをさしている、つがいのメジロが忙しそうにあちこち見ながら仲よくみかんをついばんだり、その果汁をすすったりしています。

そんな光景を見ていると小学生から中学生ころまで家でメジロを飼っていたことが思い出されます。きな粉やふかしたイモをねったり、みかんを輪切りにして餌をやるのが日課でした。時には、はこべをすった青汁や川魚・ド

ごを風呂敷に包んでメジロ捕りに行きました。私のころは蛤の貝殻や小さな缶に入った餵色の「とりもち(捕り餅)」を売っていました。五つ歳上の兄たちはモチノキの皮を削り集めて金槌で叩きつぶして作ったようです。

木の枝にメジロを入れた鳥かごをつるします。細長い枝の下側にとりもちを置いていねいに塗ります。塗るとき、とりもちが右手の親指と人差し指にくっつかないように唾をつけながら、塗

りつけたものです。その枝をメジロがとまりやすい位置にしぼり、素早く木陰に隠れます。やがて、おとりのメジロが鳴いて呼び寄せると、どこからともなく飛んできた山メジロが仕掛けた枝にとまった途端、くるっと逆さまになるのです。その瞬間木陰から飛び出してそのメジロを捕まえた時の喜び、また、群れて飛んできてもなかなかその枝にはとまってくれないときの待つ緊張感などは体験した者にしか味わえないものです。

因みに、今は、鳥獣保護法や県条例により、メジロは許可を受けなければ飼うことができません。

メジロ捕り
山にメジロを入れた鳥かご

メジロの50円切手

メジロを飼う(1) 氏原朝信

法です。こんな方に：心と身体の健康に自信が持てなくなった、激しいストレスを抱えている、疲れやすい、やる気がでない、肩こりがひどい、原因不明な頭痛がある、足腰が弱ってきた、血圧が高い、慢性病がある、一生涯願われる健康法がほしい、かっこいいことが好き、などの人に適しています。気楽に参加：初心者対象で、やさしく学べます。気軽に兼ねて参加できます。講師 NPO太極拳養生会 楊家養生太極拳師範 杉江満寿夫 会場 中央公民館 二階会議室 対象 市内在住・在勤の方 定員 午前：二十名 午後：二十名 夜間：二十名 受講料 無料 申込み先 中央公民館 申込み期限 十日(火) 問合せ 中央公民館 電話 35-16311 又は杉江満寿夫 34-7580

プニング(児童コース) 伝承芸 (5ページへ続く)

長澤晶子のSPEED★COOKING!

ざくっとチョコバー

ささっと美味しくチョコレートの
お菓子をつくっちゃいましょう。
プレゼントにしたら喜ばれますよ♡

材料
・板チョコ…90g ・こめはぜ…30g

作り方
①板チョコを手で適当に割ります。
②①を湯せんして、チョコを溶かします。お湯は熱々でよいです。
③②の中にこめはぜを全部入れます。
④ラップを(30cm巾)40cmぐらいで切り③を中央に2cmの厚さで平らにならします。
⑤④をラップで包み、空気を抜くように手のひらで平らにします。(厚さは1.5cmまで薄くしてよいです。それ以下だと割れやすくなります。)
⑥冷凍庫で完全に固めて、2cm巾にカットします。ステンレスバットに入れて冷やすと早く冷めます。包丁は薄い刃のものがよいでしょう。
⑦セロハンやワックスペーパーに包んでプレゼントするとよいですね。

常滑市民文化会館

- 第二十回 ふれあい芸能フェスティバル(とこなめポップジャム)：一日(日)午後0時半～同六時二十分
- 常滑おやこ劇場 高学年部例会「かの九ぶろ」：七日(土)
- 常滑おやこ劇場 高学年部例会「女と男のついで」講演会 映画「八日」午後一時～同四時十五分
- 常滑市立図書館 常滑市小中学校読書感想画展：四日(水)～十二日(木)
- 虹彩会油絵展：十三日(金)～二十一日(土)
- 常滑市民俗資料館 第六回企画展 明治大正の常滑焼：七日(土)～三月二十二日(日)
- 常滑市体育館 村上睦子杯争奪第九回市民小中学生バスケットボール大会：一日(日)
- 常滑市体育協会体育表彰式：一日(日)
- 愛知県中学生男子学年別卓球大会：七日(土)
- 第五十回全知多ダブルス卓球大会：八日(日)
- 常滑市小学生バドミントン大会：十四日(土)
- 愛知県小学生学年別卓球大会：二十一日(土)
- 第五十四回常滑市少年卓球大会：二十一日(日)
- J・Aあいち知多ソフトバレーボール大会：二十八日(土)
- 常滑市中央公民館 中央公民館協賛公開講座 太極拳初心者教室(午前コース) 毎週土曜日(午前十時～正午) 計五回：十四日、二十一日、二十八日、三月七日、十四日(夜間コース) 計五回：計五日 十三日、二十日、二十七日、三月六日、十三日、二十七日(火) 午後七時～同九時 計五日
- 常滑市体育館 初級者向けの教室です。若者男女誰でもできます。気軽に参加して下さい。一生涯役に立つ健康法です。太極拳とは：太極拳の極意は「心息動」です。平らかな豊か心をゆつくりとした腹式呼吸でゆつたりと動き、自然治癒力を高める究極の健康法です。

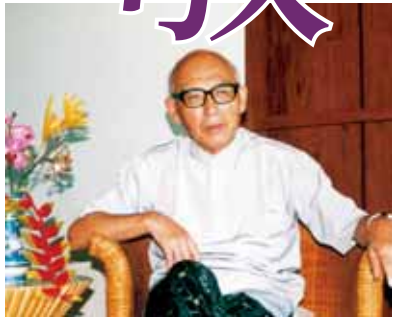
知多の新鮮たまご 発酵ケイフン (有)知多エッグ 知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

誠意をこめて安心のお手伝い 年中無休・24時間体制 (有)大阪屋葬祭 常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール TEL<0569>35-4949 (代表) FAX 35-4911

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島行ったり来たり』(14)



《伝統的な

『バリ島の村に住む』①

扉で囲まれた家屋敷、森に包まれたように佇む家屋敷が、や、坂道の道路脇に連なっている。森に包まれた家屋敷の裏には、山から流れる清水や、湧き水の谷川になっている。

これらの家屋敷・谷川を挟んで両側は、見渡す限り見事に手入れのゆき届いた稲田が続く。それが多様な棚田の造形美を造り出している。このような風景が坂道の街道を昇り詰めるまで延々と長く・広く続いている。

滞在地の土地と家屋の完成——。そのための儀式と披露を行う日程が、地域の人々との相談のうえに決った。98年2月12日——。

バリ島の気候は、典型的な熱帯性気候で、一年は雨季と乾季の二つの季節に分けられている。南東の季節風により冬のオーストラリアなど影響を受ける四月頃から、十月頃までは乾季に当る。あとの半年は北西の季節風の影響を受ける雨季になる。

その当日も、朝から小雨が断続的に続いてきた。前日、工事中よりなにかと世話になり、完成を期に、管理人を依頼した筋向いに住むS氏の案内で、数人の家々に挨拶に回った。雨季とはいえ、その日は朝のうちの激しい雨(スコール)も上がり、空は晴天。雨季とは、日本の入梅のように蒸し暑く、雨が一日中降り続

く、どうとうい季節”か、この思い込みは、見事にうち消された。

地域の世話役や滞在地に土地を接する村人——今後とも密度濃く接する人々の家々のようである。

この「集落」は、「バンジャール」と呼ばれ、バリ島最小の社会単位である。一般に道路の両側に密集している。その大きさは、大小さまざまとはいえ、集会場などの公共施設の建築・維持・管理、地域の清掃などの共同労働、各家族の儀礼(成人式・結婚・出産・葬儀など)の手伝いは、どのバンジャールにも共通した役割になっている。

私たちの滞在地完成のための儀式も、このバンジャールの習慣に従って、地域の人々の手によって取り行ってもらった。供物のための菓子づくり、供物に用いる椰子の若葉をつかった手のこんだ飾りづくりは、前日から女性の手で——。祭壇づくりなどの力仕事は、男性の手で——。祭礼を行う場所や、祭壇の位置は、バリ・ヒンズー教の儀礼に従って、バリ人の「母なる山」とし尊敬されているアグン山を望む、東側に向けてられている。

それは、バリ人に語り継がれてきた「方位」についての、このような考え方に従ったことである。

山の方向は『聖』。海の方向は『邪』——。

『山』は、神様や祖先の住むところ。『海』は、悪魔の住むところ。『人間』は、山の頂きで暮らす神様たちと、海底の世界を支配する悪魔たちとの関係を保ちながら、その中間の世界に生活している——。

こうした古代からのバリの人々の世界観は、途絶えることもなく今もなお生き続け、各屋敷の建物や各集落の公共施設の配置などの生活空間の構造のなかに、しっかりと埋め込まれている。

昔からの伝統がこのように習慣として受け継がれている村々を、バリでは「デサ(村)アダット(慣習)」慣習村と呼ぶが、これらの村の墓地は必ず、村はずれの海側にあり集落の区切りの目安ともなっている。

《山の森に住みついた祖先》

自然と共に調和して生きているバリ島の人々のこのような世界観は、その後のバリ島に関する多面的な調査研究の成果とあまりにも合致していることに驚かされる。

「山の方向が神聖な方向とされる」のは、「山は神や祖先たちの住む場所であり、また生命を維持するため水が流れてくる方向だからである」と言い伝えられている。

その根拠の後半は、誰れしも納得できるところであるが、前半「山は神や祖先たちの住む場所」という根拠は、単なる「信仰」からくる言葉としては理解できるが、にわかに納得

得ができなかった。

しかし、バリ島の「歴史」を読みすすむ中で「山は祖先たちが住む場所」という言い伝えが、史実に基づくものであることに驚かされた——。

バリ島は、地形上、西隣のジャワ島とは3キロほどしか離れておらず、海の深さもせいぜい数十米にすぎない。この狭く・浅いバリ島との海峡は、氷河期には何度も地続きになっていたと考えられ、すでにその頃からバリ島にも人々が住んでいたという。

現在も「バリ・アガの村」と呼ばれ、先住民の村として昔から水草の茎・アトウという丈夫な蔓細工(カバン・茶卓など)で有名な、「トゥンガナン村」や、陸路を断って、古来の風葬の伝統を守り続けている湖畔の村「トゥルニアン村」が有名です。16世紀に入ると、ジャワ島にイスラム教の勢力が台頭し、従来のヒンズー教のマジャパヒト王朝は崩壊する。この時、大勢の貴族、僧侶、芸術家、職人、農民が大挙してバリ島に亡命したという。

現在のバリ人の祖先は、先住民「バリ・アガ」と、この時ジャワ島から渡来した「バリ・マジャパヒト」に大別されるが、共に生活に必要な水と、食料の採集・栽培・狩猟などに有利な「自然の恵み豊かな山間の森の中に、住みつくようになったという。——史実でもあったこのバリ人の世界観は、親たちによって、今日も子どもたちに語り伝えられてきている。

《お祈りの日々》

バリ島ほど、儀式やお祈りの多いところはない——とは、書物では知っていたが「そのとおり」とあらためて実感させられた。

三十名ほどの地域の人々による竣工の儀式も終り近づいた頃、小雨のなか五・六名の村人の女性が、鈴を振り、なにやら指先を器に浸し、水

滴を振りかけながら敷地の縁を廻っている。儀式は、とどころりなく終わった。

「敷地囲りの祈り」の意味を尋ねると「土地に住みつき、時々悪さをする悪霊に安寧をお願する儀式」だという。

悪霊は日没時に、とりわけ悪さをするので、この時刻になると、どの家でも体を清め、服装を整えた女性が敷地の地面に「チャナン」という供物(写真参照)と香りの好い線香を立て、祈っている。わが家も管理

人の夫人が、庭にチャナンを供え線香の煙を指先でなで切るような仕ぐさで敬虔な祈りを捧げている。朝は敷地内の「聖」なる方向(北東)に立てられた「サンガ」(祠)に供物を捧げ、神のご加護を祈念している。神々と共に生き、神に祈るバリ人の女性の姿は、実に上品で、ゆつたりとして美しい。神秘ささえ漂っているように見える。

WHO調査のいう「精神病の一番少ない地域バリ島」の要因の一つを垣間見た思いでもある。



ほりお教授の 体験的源氏物語論(五)

「源氏物語」御屠蘇ゼミ

愛知淑徳大学教授 堀尾幸平



源氏物語千年プラス一年紀の平成二十一年正月元日の夜、ほりお教授の研究室名古屋市の自宅書齋(で恒例のゼミ開講初めが催行された。

ほりお教授夫妻をこよなく敬慕している老若男女の学生三十余名、十一帖の書齋にぎっしり詰まって、にぎにぎしく、楽しく熱気むんむん。今回は、その探訪、中継の記録である。

ゼミ初め、お屠蘇の儀

「新年、あけまして、おめでどう！」

うるし塗りのお屠蘇器を捧げ持って恭しく登場したほりお教授を見て、一同は、驚き、笑い、一斉に拍手する。教授の衣装がすごい！

「ほりお教授が光源氏に変身されたぞ！」

束帯姿に浅沓、おまけに冠まで、凝っている。この平安装束の担当責任は定子夫人のアイデアだけあってさすが。だが、よく見ると、大島紬の上に半てんを前後逆にした束帯・黒いスリッパの浅沓、それにまた前後逆にした黒い野球帽の冠。

教授の茶目っ気に一同思わず笑ってしまう。これより教授直伝の古式床しお屠蘇の儀が行われるが、年少者順に全員いただくため時間がかかるので省略、割愛する。

教授：「仕事は風(采)からの諺のごとく、文字の鑑賞、研究には服装が重要である。衣装をまとうと自然と作品の雰囲気がかめて解釈や主題も判かってくるものでは。一同：(ありがたくなすぎ、最敬礼、お辞儀)

学生：教授の「体験的源氏物語論」は面白くて勉強になると好評ですが、先回の「源氏物語の正月」の中の「美化されすぎた光源氏」を光源氏ファンの子はひどく不満のようでしたが……。

教授：少し書き過ぎたかも知れないが、あれが真実。光と影、陽と陰、明と暗は「源氏物語」の二面性。光源氏は「伊勢物語」の在原業平とちがって創作された虚構人物。虚

実自体を写実手法で人間の真実に迫っているのだから、当然、暗、負の部分も出る。

学生：その部分を具体的に聞かせて下さい。

教授：前回は説明したが、例えば女性に対しては美ぼうや身分等、表面的なものにひどく執着する。女性遍歴では、あきつぽく次々に女性を漁っていく。二また三また五またくらいをかける。あれは愛の基本からはずれている。姫君達も孤独だが、一番の孤独は光源氏ではなかったか。

学生：その点、六条の御息所はすごいですね。源氏ひとりを一途に愛しつづけたから。

教授：その通り。一途はすごい。もっとも源氏も藤壺を一途に求めている。だが、その藤壺が思うようにならないので、次から次へと新しい女性を求め漁るようになった。というのが全編のプロットだ。

結婚

学生：紫上は、最良、最高の僧侶ですね？

教授：だが、その紫上も幸福ではなかった。自分が藤壺に似ていたから愛されたものの成人後も苦悩が絶えなかった。明石の上への嫉妬。それに源氏が女三の宮の所に泊まった時など一夜中、泣き明かしている。

学生：源氏はなぜ女三の宮と結婚したのですか。

教授：兄の朱雀帝に頼まれたこともあるが、本意ではない。源氏自身、女三の宮が欲しかったが、一応、辞退している。

学生：辞退？どうしてですか。

教授：自分は誰よりも女三の宮を愛しているが、高齡四十を過ぎていて、末長くお世話をすることはできないからと、ともにもうしく断った。だが、結局妻にしてしまった。

学生：十四歳という若さで美ぼうだったから？

密通

学生：その女三の宮も、結局、源氏を裏切つて、柏木と不倫、密通してしまうのですか。

教授：以前から女三の宮に恋い焦がれていた柏木に迫られた宮は、密通して子ども(薫)を宿してしまふ。

学生：源氏に愛されているのに密通で子どもを生むなんて最低ですね。

教授：そう言つては女三の宮がかわいそうだ。あの恋はレイプから始まったようなもので、女側からすれば二つの事故だった。一方、女三の宮宛の手紙を源氏に見られて密通が露見した柏木は源氏の責めを受け、罪の意識から病に伏して死ぬ。

学生：柏木には、自分の愛を認め、女三の宮や生まれてくる子どもを堂々と守るくらいの度量が欲しいと思う。おどおどした負け犬的言動がなげない。

学生：そう。源氏だって昔、藤壺と大不倫をしている。教授が言われる道徳律を超えた愛の世界ですから、女三の宮の方は？

教授：女三の宮も柏木似の薫を生んで悩む。そして源氏に責められ疎まれて、父朱雀院の手で剃髪、出家する。(源氏は、この剃髪を紫上の時とちがって止めなかった)。以後、宮は柏木のことには触れていない。

学生：柏木と宮の短くはかない恋でしたね。

学生：宇治十帖にも、似たような展開がありましたね。

教授：匂宮(源氏の孫だね。匂宮は、浮舟が慕っている薫(女三の宮の密通の子)に言動から香までそっくり似せて浮舟と強引に契つてしまふ。ことが済んでから浮舟は初めて相手が匂宮だったことに気づく。

学生：ひどい！絶対に許せませんね。

教授：ところが浮舟は、心では薫を愛しているが、体は情熱的な匂宮を受け入れてしまふ。

学生：で、最終的には、どちらを選んだのですか。

教授：心と体の相克に苦しみ、母上宛と匂宮宛の二通の遺書を書いて、入水自殺する。薫には書いていない。

学生：とすると、浮舟は精神的愛より情熱的、肉体的愛を選んだのですか。

教授：この精神的愛と肉体的愛の問題は、千年後の現代でも文学上の重要なテーマとして、多くの作家が真剣に取り上げている。

学生：「源氏物語」には、一方的で強引な契り、つまりレイプみたいなものが出てますね。

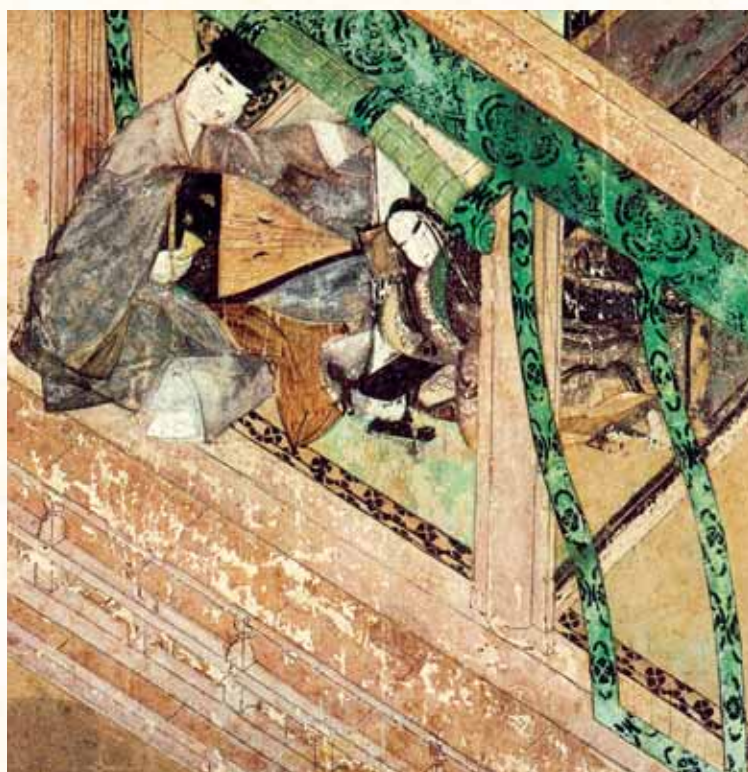
教授：そう。源氏と藤壺との愛もそうだった。

そして今また、柏木と同じ仕打ちを源氏はされてしまった。そこには因果応報六道輪廻の仏教思想がある。

素敵な男君たち

学生：ところで「源氏物語」には、ほかに素敵な男君たちが多く登場しますね。

教授：もちろん。優雅で美しく、身分、教養に富む多くの男君たちが登場してくる。頭の中將、惟光、夕霧、明石の入道、それに「宇治十帖」の薫と匂宮等々。魅力ある男君たちが次々に多彩に描かれている。だが、やはり光源氏を中心、理想的に描かれていて、ほかの男君たちは源氏には遠く及ばない。



徳川美術館蔵 源氏物語絵巻 宿木三(部分) 国宝

奔走のいかあつて、源氏と明石の上は結ばれる。そして明石の姫君を生む。その姫君はやがて京で紫上に育てられ、今上帝に入内する。その後、将来、帝になるはずの春宮(皇太子)が生まれる。

学生：すごい話ですね。

教授：一族の確約された繁栄を自分の目で見届けた明石の入道は、すべてに満足。長い手紙を娘に送った後、世俗のいっさいを捨てて山奥深く姿を消してしまふ。悟りきった入道のさつぱりとした生きざまは、気持ちがいい。彼は物語の中では、反貴公子、異質、変人タイプだが、田舎くさい所が、人間的で、愛嬌があつて憎めない好人物といえる。

学生：いろんな人物が登場するのですか。

教授：そう。登場人物は約四百人。主要人物も三十余名。七十年間の物語になっている。

源氏物語的生き方

学生：では先生。そういう多くの登場人物たちの共通の生き方、つまり共通項、最大公約数みたいな生き方を教えてください。

教授：長い源氏物語には実にさまざま多くのことが、時には反面人生的論的に書かれてもいるが、大体、次のようになる。

- (一) (教育論) 男子は学問を身につけていれば何も心配はない。学問、教養が大切だ。
- (二) (芸術論) 書、絵など臨時的なものには容易だが一定の規格もはむずかしい。それに写実的、心理的手法を重んじる。
- (三) (社交論) 何とも相手の立場に立つていろいろ配慮することが大切。
- (四) (愛情論) 短期的、移り気的言動はよくない。相手には、最後まで尽くす。
- (五) (男女論) 男の仕事は分業的で適材適所。女性、主婦は狭い家の中で仕事を全部やるので万能が要求される。文芸的才能などは普通であれば充分。
- (六) (人間論) 何とも男女はよく話し合つて相手を理解するように努めること。

学生：先生、大変よく分かりました。

教授：そんなに簡単に分かるものではないよ。「源氏物語」をよく読んで、いろいろ考えて、それを自分たちの人生に生かしていくことが重要。おたがいに、もっともつと勉強しなければね。それでは、また。

(愛知淑徳大学文学部教授)

明石の入道

学生：手引きしたのは王命婦でしたね。帝の宮である人にレイプの手引きをするとは大変な女房ですね。許せません。

教授：これには、いろいろな説があるが結局のところ王命婦の美意識と考えたい。つまり若い源氏の藤壺への激しく一途な情熱に、王命婦は、共感し、感動して手引きをした。それはもう道徳律をはるかに超えたものであった。

明石の入道

教授：それらの中で、あまりに庶民的、世俗的すぎて、目立たないが、今は、明石の入道という人物を紹介したい。

学生：貴公子ではないのですか。聞かせて下さい。

教授：明石の入道は、若い頃、近衛中將、播磨守として活躍。任果てて後、明石に豪荘な邸を構え、信仰と一族栄耀を願う生活に入った。そしてひとり娘・明石の上を何とか貴人の妻にしたいと渴望していた。娘もまた父親と同じ志で「貴人の妻になれなかつたら明石の海に身投げする」までの決意。父親の滑稽なまでの一途な策略

知多の動植物雑記(二四五)

原 穰

昨年暮れも間近かの志町田湿地草刈り作業日。風は冷たく吹く風に「寒いー」であつたが、樹林に囲まれた湿地はまあまあ暖か。



クビキリギス

ウメバチソウが、ここにもあそこにも白い五弁の花びらを開いている。冬のさ中に咲く花々に感動しながら、本日のお仕事、湿地の草刈り作業の開始。

春には元気で会いましょう

田湿地の水は富栄養気味。だから、雑草は生え放題。中央部は公開日に見て頂くこともあつて、それなりに草刈りはされているが、周辺部はこの時期の大仕事。

町の考古学

弥生時代(百三六) 奥川弘成

遺跡

弥生時代前期や中期のころは、食生活から見ると農耕文化と縄文時代の狩猟採集文化が共存していたように思われます。



ウスガイト遺跡周辺の地質(吉田史郎、尾崎正紀、1986地質図幅「半田」)

この縄文文化のなごりは、弥生時代中期の土器にも現われています。半田市岩滑遺跡やウスガイト遺跡で出土した表面がギザギザの貝などで線を引き文様をつけた土器は、三河や遠江を中心に分布する水神系、続水神系などの土器といえます。

知多半島の三河湾側東海岸沿いでは、この時期の遺跡は多くありません。岩滑遺跡や武豊町のウスガイト遺跡、南知多町山田遺跡などの数箇所の遺跡です。

ウスガイト遺跡では、大段丘の平地のうち南北百メートルほどにわたる範囲で弥生時代の遺跡や遺物が散在していました。

このころの農耕は、有用な土地を開墾し、水を引き込み灌漑するほどの高度な作業を行うものではなかったと考えられています。

他方、三河湾側は砂堆の形成がまだ進んでおらず、大勢を養うまでの生産力が土地になかったと考えられています。

農耕技術の発達による灌漑が進み、生産力上がったのは、次の時期、弥生時代後期だといわれています。

やれば、やはり上衣を脱いでいる。「休憩にしましようよー」で一息。ところが、草を刈り取った湿地に目をやれば、クビキリギスが静止。大きさは五センチほど。色は緑と褐色のものがあるが、今回のものは全くの枯草色。

ところで、草を刈り取った湿地に目をやれば、クビキリギスが静止。大きさは五センチほど。色は緑と褐色のものがあるが、今回のものは全くの枯草色。

早川さんは雛人形や五月人形、狛犬・タヌキ・招き猫・ふくろうなどの動物を手がけた作家だ。これらの作品の多くはポップなピンク色が施されているのが特徴だ。

早川さんが手がけた作品を並べて、愛犬と一緒に撮った写真を送ってくれたファンもいるという。早川さんは土味を生かし、自分らしい作品作りを、とことんこだわる。

早川さんが手がけた作品を並べて、愛犬と一緒に撮った写真を送ってくれたファンもいるという。早川さんは土味を生かし、自分らしい作品作りを、とことんこだわる。

早川さんが手がけた作品を並べて、愛犬と一緒に撮った写真を送ってくれたファンもいるという。早川さんは土味を生かし、自分らしい作品作りを、とことんこだわる。

早川さんが手がけた作品を並べて、愛犬と一緒に撮った写真を送ってくれたファンもいるという。早川さんは土味を生かし、自分らしい作品作りを、とことんこだわる。

早川さんが手がけた作品を並べて、愛犬と一緒に撮った写真を送ってくれたファンもいるという。早川さんは土味を生かし、自分らしい作品作りを、とことんこだわる。

早川さんが手がけた作品を並べて、愛犬と一緒に撮った写真を送ってくれたファンもいるという。早川さんは土味を生かし、自分らしい作品作りを、とことんこだわる。

若竹俳壇 作品募集 毎月十日までに募集して 発行所へ

うたごえ in 茶房つばら 子供の頃明った懐かしいあの歌をみんなで大きな声で唄いませんか!

第17回 うたごえ in 茶房つばら

